

9. 薬学部

(1) 薬学部 of 教育目的と特徴	9-2
(2) 「教育の水準」の分析	9-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	9-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	9-12
【参考】データ分析集 指標一覧	9-15

(1) 薬学部 of 教育目的と特徴

1 薬学部 of 基本的な教育目的

薬学部では、学校教育法の改正に伴い、平成 18 年度に 6 年制課程の薬学科（定員 55 名）と 4 年制課程の創薬科学科（定員 50 名）を設置した。両学科とも、本学の理念及び目標（別添資料 3709-i1-1）達成のための、学部基本理念に基づき、薬学教育モデル・コアカリキュラムに加えて、それぞれの学科の設置目的に沿った特徴ある教育活動を行い、教養教育と専門教育を通して、社会に貢献できる優秀な薬剤師や創薬研究者を育成している。

2 薬学部 of 教育の特徴

2-1. 入学者の状況

薬学部の入学定員は、薬学科 55 名、創薬科学科 50 名の計 105 名としており、一般入試（前・後期）の他、推薦入試、また若干名の帰国生徒入試と、広い受験機会を設けている。学科ごとの県外出身者はおおむね 80% を超え、全国から優秀な学生を選抜している。男女比率は、薬学科はほぼ男女同率、一方、創薬科学科は男子 6 ～ 7 割程度である。後期日程及び推薦入試で面接試験を実施し、求める学生像に見合った学生の確保に努めている。

2-2. 薬学教育モデル・コアカリキュラム

薬学科においては、平成 27 年度入学生から「薬学教育新モデル・コアカリキュラム（新コアカリ、平成 25 年度改訂）」を適用している。

2-3. 医療分野の少人数教育

薬学部と医学部との学部横断的な科目である「医療学入門」や「和漢医薬学入門」を提供し、医療現場や漢方医療についての知識と実践を理解させている。また 3 年次に「総合薬学演習」を開講し、医薬品に関する各種情報収集とその理解、発表会を行っている。これらの科目は全て、学生が少人数グループを組み、体験実習と講義を履修させている。

2-4. 薬学科における薬剤師の養成

6 年制課程の薬学科では、高度な職能を持ち、和漢薬を含めた広義な医療分野で活躍できる薬剤師の養成を目的とした教育を行っている（別添資料 3709-i1-2）。4 年次から 6 年次には、臨床実務実習と卒業研究を行い、問題解決能力の育成に努めている。

2-5. 創薬科学科における研究者・技術者の養成

4 年制課程の創薬科学科では、基礎となる自然科学（化学、生物、物理）と、薬理学や薬剤学などの創薬に関連する専門的な薬学の知識と研究技術を身につけた、創薬研究者の養成を目的とした教育を行っている（別添資料 3709-i1-2（再掲））。「富山のくすり学」「製薬企業と創薬」「薬学経済」など、本学独自科目を開講している。

2-6. 卓越薬学教育プログラム「和漢薬コース」「応用製薬コース」

専門性を深めるための「卓越薬学教育プログラム」を設置した。医学部・薬学部・附属病院・和漢医薬学総合研究所が近接するメリットを生かし「東西医薬学融合」の視点から貢献できる薬剤師や先端創薬を展開できる研究者の育成を目的とする「和漢薬コース」と本学薬学部及び富山県の特徴である創薬・製剤や先端の漢方薬製剤応用を学ぶことを目的とする「応用製薬コース」の 2 コースからなり、令和元年度から履修がスタートした。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・公表された学位授与方針（別添資料 3709-i1-1～2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・公表された教育課程方針（別添資料 3709-i1-1（再掲）、3709-i1-2（再掲））

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・体系性が確認できる資料（別添資料 3709-i3-1～2）
- ・自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 3709-i3-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成30年度に、教育課程の体系性を明示するために、授業科目に科目間の連携や科目内容の難易を表す番号を付ける「科目のナンバリング」を行った。これにより、学生がディプロマ・ポリシーに示す身に付ける能力をどのように履修していけばよいかを理解し、教育課程全体の中で個々の授業科目がいかなる位置にあり、どのような目的で履修するのかを把握することができることとなった。同時にカリキュラム・マップを作成し、本学部の教育課程の編成において、学生がナンバリングに基づきカリキュラムの順次性を理解し、授業科目の偏り等をチェックできるよう取り組んでいる。[3.1]
- 附属病院さらには和漢医薬学総合研究所（附置研究所）が連携し、薬学部の薬学科、創薬科学科を卒業するための教育課程に加えて、両学科の専門性を深めるための関連分野を主体的に学修する「卓越薬学教育プログラム」を設置している。本プログラムには、東西医薬学融合の視点から医療に貢献できる薬剤師や先端創薬を展開できる研究者の育成を目的とする「和漢薬コース」及び、本学薬学部及び富山県の特徴である創薬・製剤や先端の漢方薬製剤応用を学ぶことを目的とする「応用製薬コース」の2コースを設置している。履修初年度となる令和元年度においては、

富山大学薬学部 教育活動の状況

和漢薬コースにおいて、募集定員 20 名のところ、履修希望者が 28 名と定員を上回る希望が寄せられた。希望者の GPA 及び志望理由書をもとに選考し、21 名に履修を許可した（別添資料 3709-i3-4）。[3.2]

- 製薬企業の創薬研究等に関する調査・自由研究を行い、将来国内外の薬学関連分野で研究者として活躍できる科学的センスを養うことを目的とし、製薬企業で活躍する研究者による講義を含めた「製薬企業と創薬」を創薬科学科 3 年次生の必修科目とし開講している。本講義では製薬企業研究者の講義のあと、受講生は教員の指導のもと、自らが興味を持った講義内容をもとに関連する創薬研究について調査、自由研究を行い、研究内容をレポートにまとめており、毎年「製薬企業と創薬 創薬科学科 3 年次生レポート集」として印刷の上、教員、学生に配布し活用している（別添資料 3709-i3-5）。[3.2]
- 公益財団法人田村科学技術振興財団の寄附講義として、卒業後の職種内容のイメージを深め、自身の具体的な将来設計のために修得すべきことを見出すことを目的とし、現在薬学関連の様々な職種で活躍されている富山大学卒業生による講義・学生発表・講師と学生のディスカッションからなる「薬学経済」を開講している（別添資料 3709-i3-6）。[3.0]
- 本学特任教授に就任した田中耕一氏（平成 14 年ノーベル化学賞受賞者）による特別講演会（平成 30 年 11 月 14 日；約 220 名参加、令和元年 10 月 30 日；約 200 名参加）及び実習（平成 30 年 11 月 14 日；約 50 名参加）を開催している（別添資料 3709-i3-7）。[3.0]

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1 年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 3709-i4-1～2）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 3709-i4-3～5）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 3709-i4-6）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 3709-i4-7）
- ・ 指標番号 5、9～10（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 30 年度から教務委員会委員においてシラバスの内容を相互チェックし、必須項目の記載漏れ等について、組織的に確認する体制を確立した。[4.4]
- 平成 30 年度から、成績評価の公正性担保を目的とし、薬学部生の「卒業研究評価基準」を作成し、適用した。これに加え薬学科においては、「卒業論文作成方針」、「卒業論文作成要領」を教職員・学生双方に示すとともに、卒業研究指導及び評価のために主査、副査制を導入し、副査は当該学生が所属する研究室以外の研究室教員が担当することとした。また評価の際は、主査・副査が「卒業論文」、「卒業発表」、「問題解決能力」、「課題に取り組む意欲・態度」の 4 項目を共通ルーブリ

ック表により評価することとし、4年次中間発表時の副査が6年次の研究発表時にも副査を務めることを原則とした上で、2年間の学生の向上度を測定する体制を構築した。また、各教員はルーブリックに即して指導を行っている（別添資料 3709-i4-8）。[4.4]

- これまでの授業評価アンケートや卒業時アンケート等に加え、平成 31 年度にディプロマ・ポリシー達成度調査を実施した。本調査結果を踏まえ、学修の段階や順序の適切性について検討を行うこととしている（別添資料 3709-i4-9）。[4.7]
- 平成 30 年度では、富山県や地元製薬企業と協力し、地方大学や医薬品産業の振興を目指す「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムの事業の一環として、「サマースクール」創薬・製剤コースを開講し、都内で薬学を学ぶ大学院生や学部生 15 名に対し、創薬・製剤・漢方薬などに関する講義や県内製薬企業でのインターンシップ型実習等による教育を行い、「くすりの富山」を支える優れた専門人材の育成と定着に向けた取組を開始した。令和元年度のサマースクール参加者 15 名に実施したアンケートでは、「富山県の医薬品産業についてどの程度知っているか」という問いに、参加初日は 40%が「ある程度知っている」との回答であったが、最終日には「よく分かった」及び「ある程度分かった」と回答した割合は 100%となった。また「サマースクールを受講してよかったか」との問いには、「良かった」及び「ある程度良かった」と回答した割合も 100%（うち「良かった」と回答した割合は 80%）となり、参加者の満足度は高いと言える（別添資料 3709-i4-10）。[4.0]

＜必須記載項目 5 履修指導、支援＞

【基本的な記載事項】

- ・履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 3709-i5-1）
- ・学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 3709-i5-2）
- ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 3709-i5-3）
- ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 3709-i5-4）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 薬学部では、学生支援として、次の 3 つの制度を整備している。まず、履修に関することや修学上の相談、休学、復学、退学などを含めた学生生活全般に関して相談体制として「クラス担任制度」を設けており、学生が 1 年次から研究室に配属されるまでの間、原則一貫として同じ教員が担当している。次に、平成 30 年度から新たに留年生等の指導のために「クラス担任連絡会」を設置し、クラス担任間の情報共有を容易にした。また、留年を未然に防ぐために、「連絡会」で学生の講義や実習への出席状況、中間試験や期末試験の受験状況を調べ、修学上問題のある学生を見出し、クラス担任が面談を行うなど学修をサポートしている。さらに、他キャンパスで教養教育を実施することに伴い、クラス担任制度ではカバーしきれない 1 年

富山大学薬学部 教育活動の状況

次の修学状況等の把握を行うために、平成 30 年度から、薬学部の各研究室が、1 年次生 5 名程度を 1 年間担当し、学生が抱える就学上の悩みや問題を、迅速かつ適切に受け止める役割を担うとともに、年 2 回当該研究室にて具体的なアドバイス等の交流「薬学部なんでも Q & A」を実施し、学生と教員の関係構築を図っている。新たな指導体制の構築により、平成 29 年度 30 名いた留年者数は、平成 30 年度は 18 名と 4 割減少し、大きな成果を上げている。[5. 1]

- 学生が目指す就職・進路の実現を支援するため、年間十数回程度就職ガイダンスを実施しており、就職活動に向けての自己分析、業界分析、面接試験対策、さらには学内外の合同就職説明会の予定の周知を行っている（別添資料 3709-i5-5）。[5. 1]
- 学生の視野を広げるとともに、富山県内への就職を促すために、富山県・県薬業連合会との共催にて製薬企業説明会及び県内製薬企業セミナーを実施し、卒業後の進路設計を見据えた総合的な支援に取り組んだ。参加企業も平成 28 年度の 26 社から平成 31 年には 31 社に増加した（別添資料 3709-i5-6）。参加企業の増加に伴い、県内就職割合も平成 30 年度の 10.9%から平成 31 年度には 18.5%と向上している。[5. 3]
- 病院・薬局・製薬企業等の業界の現状等について学ぶために薬学系業界研究会を開催した他、富山県内における雇用及び定着促進の方策について検討するため、主に富山県内の薬学関係企業及び病院と共同により「薬都とやま未来懇談会」を開催し、富山県内企業への就職、将来の人材確保、薬学部の役割等について協議を行った（別添資料 3709-i5-7）。[5. 1]
- 将来富山県内で医療人として活躍するきっかけとなることを目的に、森富山市長による就職関係講演会（平成 31 年 1 月 22 日、テーマ：コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築について）を開催し、医学・薬学・看護学を学ぶ学生等約 280 名が参加した（別添資料 3709-i5-8）。[5. 1]

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 3709-i6-1～4）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 3709-i6-5）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 3709-i6-6）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 30 年度から、成績評価の公正性担保を目的とし、薬学科生の卒業研究における評価基準を作成し適用した。これに加え薬学科においては「卒業論文作成方針」「卒業論文作成要領」を示すとともに、卒業研究指導及び評価のために主査、副査制を導入し、副査は当該学生が所属する研究室以外の研究室教員が担当することとした。また評価の際は、主査・副査が「卒業論文」、「卒業発表」、「問題解決能力」、「課題に取り組む意欲・態度」の 4 項目を共通ルーブリック表により評価す

ることとし、4年次中間発表時の副査が6年次の研究発表時にも副査を務めることを原則とした上で、2年間の学生の向上度を測定する体制を構築した（別添資料 3709-i4-8（再掲））。[6.1]

- 平成30年度に成績評価分布目標について、「秀」を履修者の10%程度まで、「優」は「秀」を含めて履修者の30%以内を目安とすることを定め、厳格な成績評価を実施している。また、定めた成績評価分布目標の割合となっているか令和元年度前学期講義科目の成績分布を調査し、各教員が厳格な成績評価を実施するよう意識の醸成を図っている。[6.1]

＜必須記載項目7 卒業（修了）判定＞

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 3709-i6-2（再掲））
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 3709-i7-1～3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成30年度から、成績評価の公正性担保を目的とし、薬学科生の卒業研究における評価基準を作成し適用した。これに加え薬学科においては「卒業論文作成方針」「卒業論文作成要領」を示すとともに、卒業研究指導及び評価のために主査、副査制を導入し、副査は当該学生が所属する以外の研究室教員が担当することとした。また評価の際は、主査・副査が「卒業論文」、「卒業発表」、「問題解決能力」、「課題に取り組む意欲・態度」の4項目を共通ルーブリック表により評価することとし、4年次中間発表時の副査が6年次の研究発表時にも副査を務めることを原則とした上で、2年間の学生の向上度を測定する体制を構築した（別添資料 3709-i4-8（再掲））。[7.1]
- 創薬科学科4年次の卒業論文ポスター発表では、教員、薬学部3年次以上の学部生、大学院生が分野別（物理・化学系、生物系、医薬・和漢系）にポスターの内容、説明、質疑応答を評価し投票している。各分野の上位2名、計6名の優秀発表者に対しては、学位記交付式において学部長より卒業論文優秀発表賞等受賞者として表彰し、受賞ポスターを薬学部玄関に掲示するとともに、薬学部ウェブページにも受賞者氏名、論文題目等を掲載して、栄誉を称え、モチベーションの維持向上に寄与している（別添資料 3709-i7-4）。[7.0]

＜必須記載項目8 学生の受入＞

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 3709-i1-1（再掲）、3709-i1-2（再掲））
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 3709-i8-1）

富山大学薬学部 教育活動の状況

- ・指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- オープンキャンパスでは、説明会や学内ツアーコースのほかに、実験体験コースを設け、高校生が薬学研究の一端に触れることにより、より深く薬学に興味を持ってもらえるよう企画しており、実験体験コースへの参加生徒数は、平成30年度は197人、令和元年度は205人であった。推薦入試等の面接時に、本実験体験コースへの参加が受験のきっかけとなったと話す受験生が少なからずいる他、薬学部における実質入試倍率は、平成27年度の3.66倍から、平成31年度の4.6倍と増加しており効果が表れている。[8.1]

＜選択記載項目A 教育の国際性＞

【基本的な記載事項】

- ・協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 3709-i4-6（再掲））
- ・指標番号 3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 部局間学術交流協定を締結している南カリフォルニア大学薬学部において実施された「臨床薬学研修」に、平成28年度薬学科5年次生3名、平成29年度薬学科5年次生2名、平成30年度薬学科6年次生1名、平成31年度薬学科6年次生1名を派遣した。また、南カリフォルニア大学からは、平成29年度2名、平成30年度2名、平成31年度2名の学生を受け入れた（別添資料 3709-i A-1）。[A.1]
- 富山大学杉谷キャンパス国際交流基金学生海外派遣援助から、平成28年度、薬学科6年次生1名に対し、アメリカ合衆国サンディエゴで開催の北米神経科学会（Society for Neuroscience(SfN) Meeting 2016）への派遣を支援した。[A.1]
- TOEIC 730点を目指し「TOEIC 講習会」を開催するなど、学生の受験を推奨しており、平成27年度は35名であったが、第3期中期目標期間中、平成28年度は46名、平成29年度は55名、平成30年度は41名と参加者を増やしている。[A.1]
- 日本学術振興会研究拠点形成事業（採択期間：平成28～30年度）により、海外の拠点機関及び協力機関との共同研究及びセミナー並びに研究者交流等を実施した。本事業では、計3回の富山・アジア・アフリカ創薬研究シンポジウムを開催した。第1回と第3回は富山で開催し、中国、韓国、インドネシア、エジプトから研究者を招き講演を行った。学部生、大学院生がポスター発表を行い、外国人研究者と議論した。第2回シンポジウムは中国山東大学で行われ、薬学部等の教員が10名、学部生を含む学生12名の合計22名が中国を訪問し、シンポジウムに参加した。中国側参加者は43名で、シンポジウムは合計65名の参加があった（別添資料 3709-i A-2）。[A.1]
- マレーシアマラヤ大学医学部薬学科及びアメリカ健康科学大学薬学部との部局間学術交流協定を締結するとともにスイス連邦バーゼル大学との大学間学術交流協

定を締結し、研究活動を介して教員、学生の交流の活性化の促進を図った（別添資料 3709-i A-3）。[A. 1]

<選択記載項目B 地域・附属病院との連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 27 年度に富山大学の製剤技術に関する教育・研究レベルや、薬学部学生の製剤学に関する知識及び技術の飛躍的向上を目的に、富山県の製薬企業の寄付により設置した寄付講座「製剤設計学講座（客員教授 1 名、客員助教 1 名）」において、学部生 19 名、大学院生 9 名を配置し、研究指導を実施した。また、令和 2 年度から 5 年間設置を継続し、卓越した製剤研究者・技術者の養成のための実践教育等を遂行することを決定した。[B. 1]
- 富山県教育委員会主催の薬物乱用防止教室、富山県立高岡工芸高等学校薬物乱用教室、砺波市主催の薬物乱用防止教室において講義を行った。[B. 1]
- 全国の高校生を対象にオープンキャンパス「楽しい薬学部への一日体験入学」を毎年実施しており、今後も継続する予定である。本「体験入学」では「実験体験コース」と「学内ツアーコース」に分かれており、毎年「実験体験コース」には約 200 名、「学内ツアーコース」には約 300 名の高校生が全国から参加している。[B. 1]
- 科学技術振興機構（JST）による SSH 事業の一環として、富山中部高等学校の生徒 20 名を受け入れ、薬学部教員が 3 日間にわたり講義及び実習をととした創薬研究を体験させることにより、科学と薬学に対する興味・関心・理解を深めさせた。なお同高等学校は本事業の中間評価（平成 29 年）で最高評価を受けた。[B. 1]
- 実務実習を実施している関連教育病院と調剤薬局の薬剤師を対象とするスキルアップ研修会「薬剤師によるフィジカルアセスメント入門」（平成 29 年 1 月）について薬学部教員を講師として実施し、15 名の参加者が、薬物治療評価手段としてのフィジカルアセスメントの基礎を学んだ。[B. 1]
- 平成 30 年度に富山県や地元製薬企業と協力し、地方大学や医薬品産業の振興を目指す「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムの事業の一環として、「サマースクール」創薬・製剤コースを開講し、都内で薬学を学ぶ大学院生や学部生など 15 名に対し、創薬・製剤・漢方薬などに関する講義や、県内製薬企業でのインターンシップ型実習等による教育を行い、「くすりの富山」を支える優れた専門人材の育成と定着に向けた取組を開始した。令和元年度実施のサマースクール参加学生のうち 2 名が富山県内製薬企業への就職が内定している。本事業は、平成 30 年 10 月 30 日に地域における大学振興・若者雇用創出事業に関する計画の「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造計画として、内閣府から認定を受けるとともに令和 10 年 3 月 31 日まで事業を実施することが決定した（別添資料 3709-i4-10（再掲））。[B. 1]

富山大学薬学部 教育活動の状況

- 平成 31 年度より、卓越薬学教育プログラム「応用製薬コース」を開設した。本プログラムは、「サマースクール」創薬・製剤コースを本学薬学部学生にも開放したもので、創薬・製剤・漢方薬 などに関する講義や、県内製薬企業でのインターンシップ型実習等による教育であり、大学院生の受講受け入れも可とした。初年度の履修者は 3 名（いずれも大学院生）であった。[B. 1]
- 令和元年 8 月に富山大学夏季学童保育にて、「未来の薬剤師 Petit」を実施し、小学生 40 名が薬剤師の業務体験を行った（別添資料 3709-iB-1）。[B. 0]

<選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 29 年度から、薬学部自己点検・評価委員会を組織し、内部質保証を目的とした薬学教育自己点検・評価を実施し、薬学部の公式 WEB サイトに評価結果を公表している（別添資料 3709-iC-1）。[C. 1]
- 令和元年度に薬学教育評価機構による薬学教育評価を受審し、薬学部薬学科（6 年制薬学教育プログラム）は、薬学教育評価機構が定める「薬学教育評価 評価基準」に適合していると認定されるとともに、教育研究上の目的（人材養成等の目的）にある和漢薬や東西医薬をキーワードとした独自科目である「和漢医薬学入門」や「東洋医学概論」「東西医薬学」が開講されていること等について長所として評価を得ている（別添資料 3709-iC-2）。[C. 2]
- 毎年、薬学部及び和漢医薬学総合研究所合同の FD を開催し、薬学教育の質の保証、向上のために議論を重ねている。参加者は全教員の約 90%（平成 28 年度：47 名、平成 29 年：45 名、平成 30 年：44 名、令和元年：46 名）であり、薬学部教員の教育に対する興味、関心の高さ、さらに強い責任感が示されている。FD をとおして、薬学科卒業研究統一評価実施について議論され、平成 30 年度から実現された。また、FD の一環として、毎年ではないが学内教職員による講演会等も開催されている。（講演会テーマ：「障害者差別解消法の施行に伴い大学に求められること～富山大学職員対応要領および合理的配慮提供のプロセス～」(H28. 8. 6)、「ハラスメントと誤解されないために」(H29. 12. 6)、「優れた研究を行うためには」(R1. 8. 3)）。[C. 1]

<選択記載項目 D リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 3709-iD-1～2）
- ・指標番号 2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 実務実習を実施している関連教育病院と調剤薬局の薬剤師を対象とするスキルアップ研修会「薬剤師によるフィジカルアセスメント入門」（平成29年1月）について薬学部教員を講師として実施し、15名の参加者が、薬物治療評価手段としてのフィジカルアセスメントの基礎を学んだ。[D.1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目 1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 3709-ii1-1）
- ・「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 3709-ii1-1（再掲））
- ・指標番号 14～20（データ分析集）
- ・薬学課程卒業生の薬剤師国家試験合格率（厚生労働省公表）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 標準修業年限内の卒業率について、薬学科の平成 28 年度から令和元年度の卒業生においては平均約 84.3%となっている。また、創薬科学科の平成 28 年度から令和元年度の卒業生においては平均約 80.1%となっているが、各研究室指導教員によるきめ細やかな指導等により平成 28 年度卒業生の標準修業年限内の卒業率 72.5%から数値を回復させており、令和元年度卒業生は 83.3%となっている。平成 30 年度から「クラス担任連絡会」を設置、さらに、同時に1年次生対象の薬学部なんでも Q & A の実施を開始し、令和2年度からは「薬学部なんでも Q & A」を3年次前期まで拡張し、よりきめ細やかな学生支援を行っていくことを決定した。また、令和元年度には、これまでの取組も踏まえつつ、標準修業年限内卒業率等の向上方策として、授業担当教員とクラス担任や研究室指導教員において欠席数の多い学生等に関する情報の共有や指導の徹底、適切な課題提出を通じた学生の自主学習の促進等を実施していくこと教授会で確認している。[1.1]
- 平成 28 年度から令和元年度における薬学部卒業生の薬剤師国家資格試験合格率は 91.2%から 94.4%の間を推移している。[1.2]
- 日本薬学会北陸支部において、学生の研究内容について高く評価されており、特に学士課程部門の学生優秀発表賞が創設された平成 30 年度及び令和元年度の2年連続で複数名が受賞している。また、日本薬学会においてもポスター発表の部において、学生優秀発表賞を受賞している（別添資料 3709-ii1-2）。[1.2]

<必須記載項目 2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<選択記載項目 A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3709-iiA-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 薬学部自己点検・評価委員会による平成30年度卒業時アンケートの集計データの分析の結果、全学共通項目の、「母語以外の外国語（英語など）の語学力（聞く、話す、読む、書く）」及び「国際的な視点で考えることや国際的な感覚」の2項目では、「身につけることができなかった」という評価が薬学科では約60%、創薬科学科では約40%となっており、語学教育やグローバル化対応教育の面では、前年度に引き続き改善が求められる結果となった。この結果を踏まえ、平成30年度入学生から、より専門性の高い英語力の向上を目指し、「薬学英语Ⅰ・Ⅱ」を必修科目化した上で2年次に配置し教育を開始した。（別添資料3709-iiA-1（再掲））[A.1]
- 薬学部自己点検・評価委員会による平成30年度卒業時アンケートの集計データの分析の結果、薬学部独自項目においては、薬学科では、医療や薬剤師に関連する4項目の全てにおいて、「身につけることができなかった」という低評価は概ね10%前後にすぎず、6年間の薬剤師養成教育は適切に実施され、学生の修得度も良好であることが窺えた。創薬科学科では、創薬研究に必要な知識やモチベーションに関する4項目の全てにおいて、概ね90%以上が「身につけることができた」と高く評価しており、創薬科学科に求められる学識、技術、考え方を十分に修得できていることが窺えた（別添資料3709-iiA-1（再掲））。[A.1]

＜選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取＞

【基本的な記載事項】

- ・卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料3709-iiB-1～2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業生への「教育成果」についてのアンケート調査では、幅広い知識、深い専門知識・技能の修得により、社会で活躍できる能力について、本学学士課程全体では「十分身に着けることができていた」及び「ある程度身に着けることができていた」と評価する割合が合わせて55.5%であるのに対し、薬学部においては78.1%と教育に対する高い満足度を窺うことができる（別添資料3709-iiB-1～2（再掲））。[B.1]

＜選択記載項目C 就職先等からの意見聴取＞

【基本的な記載事項】

- ・就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料3709-iiC-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 令和元年度に学部卒業2年以内の卒業生が在籍する企業等に対し、本学薬学部の「教育成果」についてのアンケート調査を実施した。77か所へ調査票を送付し、37

富山大学薬学部 教育成果の状況

件（48％、ただしうち2件は個別項目への回答を控えるとのことで、各項目への総回答数は35件）の回答を得た。前回（平成27年度）の回答数（17件）を大幅に上回る回答が得られた。

「採用して良かったか」との質問に対しては、33件（94％）が「大変良い」「良い」と高く評価していた。「専門知識および技術について」では95％が「大変良い」「良い」との高評価であった。そのほか、80％を超える評価を得たのが、「積極性について」「協調性について」「探求心、思考力について」「倫理観について」「責任感について」「職務に対する目標設定能力について」であり、本学薬学部の講義や卒業研究、事前学習、実務実習の「教育成果」があらわれていると評価できる。「外国語の語学力」については、まだ入社2年以内であるためか、「不明」との回答が9件（26％）得られたが「良くない」は0件で、「大変良い」が6％、「良い」が32％であった（別添資料 3709-iiC-1（再掲））。[C.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
4. 卒業後の進路 データ	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号 8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。